

6 3 6 1 - 1 1 6 4  
平成 2 1 年 9 月 2 8 日

各関係機関の長  
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成 2 1 年度病虫害発生予報第 6 号について  
平成 2 1 年度病虫害発生予報第 6 号を発表したので送付します。

## 平成 2 1 年度病虫害発生予報第 6 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

### 発生予報の概要

作物名	病虫害名	発生量の 平年比	記載ページ
大豆及び野菜・花 き類	ハスモンヨトウ等のチョウ目(鱗翅 目)害虫	やや多	2
トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)		2
キュウリ・メロン	キュウリ退緑黄化病(CCYV) メロン退緑黄化病(CCYV)		2
カンキツ類 (露地栽培)	ミカンハダニ	並	3
果樹全般	果樹カメムシ類		3
チャ	炭疽病	やや少	3
	チャノココカクモンハマキ	やや多	3
	チャハマキ	並	4
	チャノホソガ	並	4
	カンザワハダニ	並	4
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	4
	チャノキイロアザミウマ	やや多	4
	クワシロカイガラムシ	やや多	5

### 作物の生育状況(9月中旬)

普通期水稲は乳熟期～黄熟期、極早生うんしゅうみかんは収穫前～収穫期、その他のカンキツ類は果実肥大期、茶は秋芽生育期であった。

### 向こう1か月の気象予報

天気は数日の周期で変わり、気温は高い確率60%、降水量は多い確率40%、日照時間は少ない確率40%と予想されている。

(1か月予報 鹿児島地方気象台 9月25日発表)

## 発生予報の根拠および防除対策

### 野菜・花き類

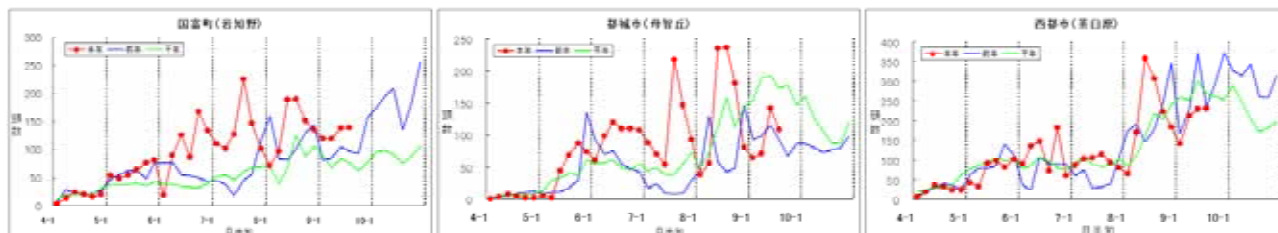
#### 1 ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫（やや多）

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 国富町、都城市、西都市に設置したフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点でも平年並～やや多で推移している。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若齢幼虫期の小さい内に防除する。



### トマト

#### 1 トマト黄化葉巻病(TYLCV)

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 病原ウイルスは、タバココナジラミ類（シハ<sup>レ</sup>リ<sup>コ</sup>ナジ<sup>ラ</sup>ミ、タ<sup>ハ</sup>コ<sup>ナ</sup>ジ<sup>ラ</sup>ミ<sup>ハ</sup>イ<sup>タ</sup>イ<sup>フ</sup>Q）によって伝搬されるので、媒介虫の施設内への飛び込みを防止し、増殖しないよう防除を行う。また発病株は見つけ次第抜根し、ほ場から持ち出し埋没処分する。
- ( 2 ) 育苗期に感染すると被害が激しく、全滅する場合もあるので、媒介虫の施設への侵入を防ぐため、育苗・栽培施設の開口部には、0.4 mm以下の防虫ネットを設置するとともに、育苗期間中の防除を徹底する。
- ( 3 ) タバココナジラミ類は、一旦密度が増加すると防除が難しいので、定植時に粒剤処理を行うとともに発生初期の防除を徹底する。また、黄色粘着トラップを設置し、早期発見・密度抑制に努める。
- ( 4 ) 特に、タバココナジラミ バイオタイプQは、各種薬剤に対する感受性が低く防除効果が劣る場合があるので、適切な薬剤の選択が必要である。
- ( 5 ) タバココナジラミ類は多くの植物に寄生し、増殖するので、育苗・栽培施設内外の除草を徹底するとともに栽培目的以外の作物や観葉植物等を持ち込まない。

### キュウリ・メロン

#### 1 キュウリ退緑黄化病(CCYV) メロン退緑黄化病(CCYV)

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 病原ウイルスは、タバココナジラミ類（シハ<sup>レ</sup>リ<sup>コ</sup>ナジ<sup>ラ</sup>ミ、タ<sup>ハ</sup>コ<sup>ナ</sup>ジ<sup>ラ</sup>ミ<sup>ハ</sup>イ<sup>タ</sup>イ<sup>フ</sup>Q）によって伝搬されるので、媒介虫の施設内への飛び込みを防止し、増殖しないよう防除を行う。
- ( 2 ) キュウリでは、特に摘心栽培で影響が出やすく、発生の程度によっては収量の減少につながる。メロンでは、感染した場合、着果とともに症状が激しくなり品質・収量が低下する。
- ( 3 ) キュウリ、メロンとも、育苗期からの感染防止に努め、特にメロンでは開花結実期までの防除を徹底する。

- (4) 草勢の低下により症状が進行する危険度が高まるため、葉面散布等の実施により草勢の維持管理に努める。
- (5) 防除対策については、トマトの黄化葉巻病の項を参照する。

カンキツ類(露地栽培)

### 1 ミカンハダニ (並)

[ 予報の根拠 ]

- (1) 9月中旬の発生面積率20.0% ( 平年38.1% ) は平年より少、寄生葉率3.8% ( 平年7.0% ) は平年よりやや少である。
- (2) 向こう1か月の気温は、高い確率60%と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- (1) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数5～10頭を目安に、発生初期に防除を行う。
- (2) 同一及び同系統の薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ-テ-ション散布を実施する。

果樹全般

### 1 果樹カメムシ類

[ 防除上の注意 ]

- (1) 県内に設置している予察灯及びフェロモントラップによる誘殺数は、平年並で推移している。
- (2) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。
- (3) うんしゅうみかんでは、色ぬけから着色始め頃の加害は落果を生じやすく、特に注意が必要である。

チャ

### 1 炭疽病 (やや少)

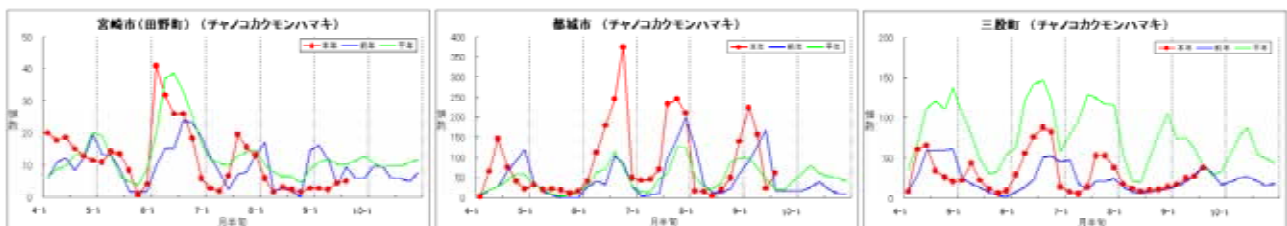
[ 予報の根拠 ]

- (1) 9月中旬の発生面積率29.4% ( 平年58.1% )、 $m^2$ 当り病葉数0.8葉 ( 平年5.0葉 ) はいずれも平年より少である。

### 2 チャノコカクモンハマキ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

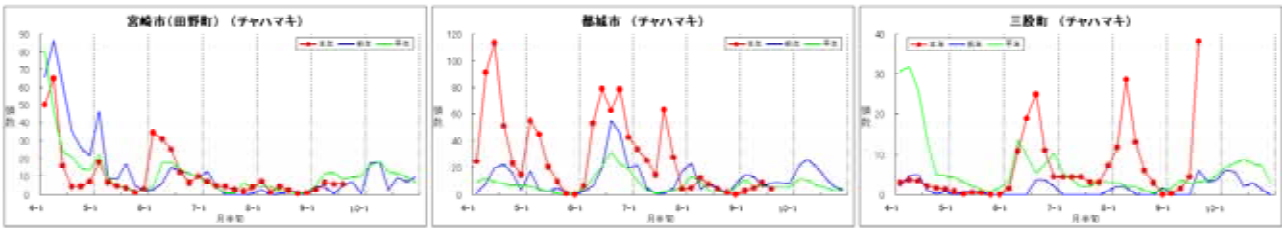
- (1) 9月中旬の発生面積率5.9% ( 平年0.0% )、 $m^2$ 当り虫数0.1頭 ( 平年0.0頭 ) はいずれも平年より多である。
- (2) 宮崎市(田野町)、都城市及び三股町に設置したフェロモントラップ調査では、都城市における誘殺数は平年より多いものの、他の2か所については平年並～やや少なく推移している。



### 3 チャハマキ (並)

[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 9月中旬の巡回調査では、発生を認めていない。( 平年の発生面積率0.5% )



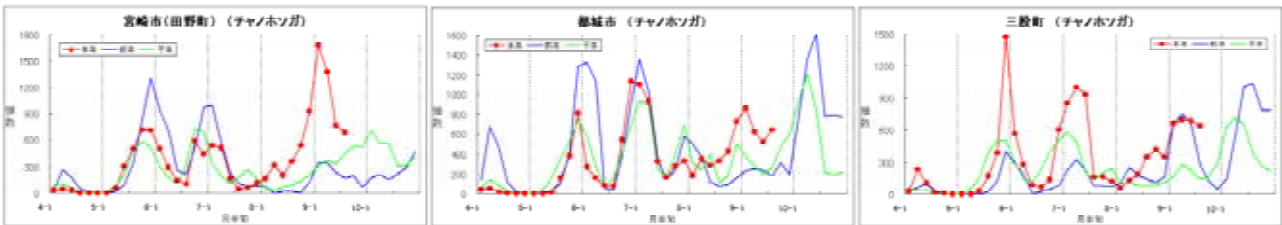
### 4 チャノホソガ (並)

[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 9月中旬の発生面積率52.9% ( 平年47.1% )、 $m^2$ 当たり巻葉数1.6葉 ( 平年2.7葉 ) はいずれも平年並である。

[ 防除上の注意 ]

( 1 ) フェロモントラップ調査での誘殺数は、宮崎市(田野町)、都城市、三股町のいずれも平年より多く推移しているため、特に幼木園では注意が必要である。



### 5 カンザウハダニ (並)

[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 9月中旬の発生面積率29.4% ( 平年34.3% )、寄生葉率1.8% ( 平年3.0% ) はいずれも平年並である。

[ 防除上の注意 ]

( 1 ) 防除適期は越冬前の10月中下旬である。本県では冬期でもダニの繁殖が見られるため越冬前の防除がより重要で、この時期の防除が十分でない翌年の一番茶への影響が大きい。

( 2 ) 同一及び同系統の薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ - テ - ション散布を実施する。

### 6 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 9月中旬の見取り調査による発生面積率47.1% ( 平年35.6% ) は平年並、寄生葉率2.9% ( 平年1.9% ) は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

( 1 ) 秋整枝を行う成木園では特別に防除をする必要性は低いですが、幼木園では密度が高まると、新芽生育初期から加害され、被害が増加する傾向があるので、ほ場を観察し、被害が激しい場合は追加防除を実施する。

### 7 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 9月中旬の見取り調査による発生面積率41.2% ( 平年31.4% ) は平年よりやや多、寄生葉率3.2% ( 平年2.5% ) は平年並である。

( 2 ) 払い落とし調査による発生面積率53.0% ( 平年37.0% )、払い落とし虫数6.6頭 ( 平年4.0頭 ) はいずれも平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 秋整枝を行う成木園では特別に防除をする必要性は低いですが、幼木園では密度が高まると、新芽生育初期から加害され、被害が増加する傾向があるので、ほ場を観察し、被害が激しい場合は追加防除を実施する。

## 8 クワシロカイガラムシ ( やや多 )

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 9月中旬の巡回調査では発生面積率23.5% ( 平年17.5% ) は平年並、寄生株率13.5% ( 平年4.1% ) は平年よりやや多である。
- ( 2 ) 向こう1か月の天候は、気温は高い確率60%、降水量は多い確率40%、日照時間は少ない確率40%と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。( 周縁部から発生しやすい。 )
- ( 2 ) 防除適期は幼虫ふ化最盛期なので、園内のふ化状況をよく観察して防除する。
- ( 3 ) 県南部では、例年第4世代の発生する地域があるが、本年は第3世代の発生が早く、また、気温の高い傾向が続いているため、平年発生のない地域でも第4世代の発生が懸念されるので今後の発生状況に注意する。
- ( 4 ) 薬剤散布は、枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

## その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。  
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>  
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>  
農林水産消費安全技術センターホームページ  
(旧 農薬検査所) <http://www.acis.famic.go.jp/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。  
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。
- 3 発生量(程度)の区分  
多 い (高 い) やや多いの外側 10%の度数の入る幅  
やや多い (やや高い) 平年並の外側 20%の度数の入る幅  
平年並 平年値を中心として 40%の度数の入る幅  
やや少ない (やや低い) 平年並の外側 20%の度数の入る幅  
少ない (低 い) やや少ないの外側 10%の度数の入る幅  
(平年値は過去 10 年間の平均)
- 4 予察情報の種類  
病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の 5 つです。  
(1) 予報・・・向こう 1 か月の発生状況を予測し、毎月 25 日前後に発表する。  
(2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。  
(3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。  
(4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。  
(5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

## お知らせ

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。  
ホームページアドレスは、<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>です。

### 【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 生頼  
TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499  
E-mail: byogaichu-hiryo  
@pref.miyazaki.lg.jp